

第44回

ごはん・お米とわたし

作文・図画コンクール入賞作品集



図画1部
山形県知事賞
「おいしいうちのごはん」
尾花沢市立鶴子小学校2年
秋保 一路さん

農林水産大臣賞

作文2部

庄内米は最高のお土産

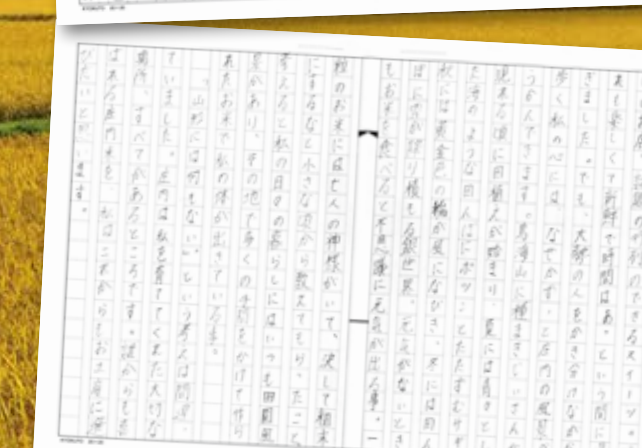
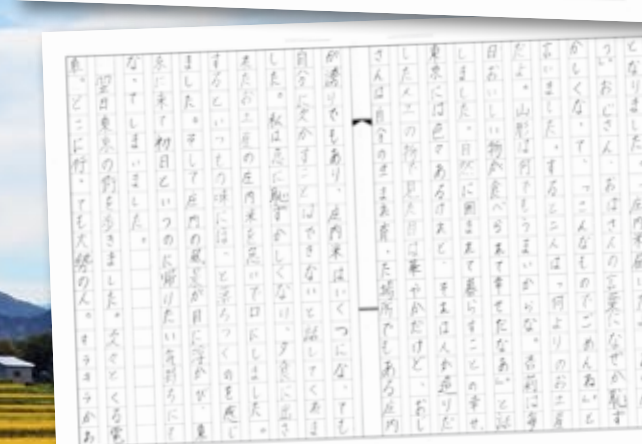
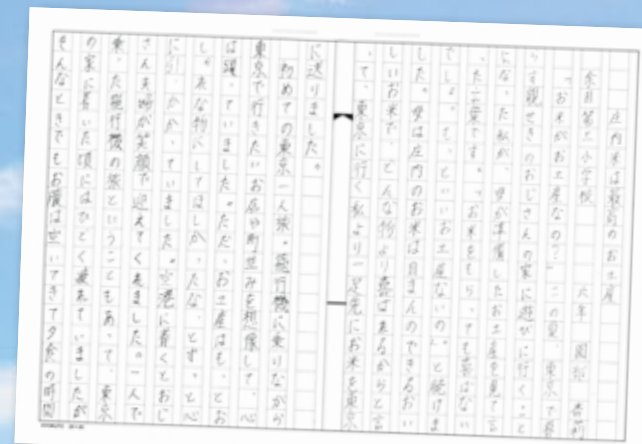
庄内町立余目第三小学校6年 園部 杏莉

文部科学大臣賞

作文1部

日本のこころ「おそまつさま」

米沢市立北部小学校3年 青木 舞桂



令和2年2月

山形県農業協同組合中央会・山形県農協農政対策本部





◆ごあいさつ	山形県農業協同組合中央会代表理事会長 長 澤 豊	1
◆第44回「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクール入賞一覧		2
◆図画部門		
図画1部	山形県知事賞 山形県農業協同組合中央会会長賞	3
図画2部	山形県知事賞 山形県農業協同組合中央会会長賞	4
図画3部	山形県知事賞 山形県農業協同組合中央会会長賞	5
◆作文部門		
文部科学大臣賞		6
農林水産大臣賞		7
作文1部	山形県知事賞 山形県農業協同組合中央会会長賞	8 9
作文2部	山形県知事賞 山形県農業協同組合中央会会長賞	10 11
作文3部	山形県知事賞 山形県農業協同組合中央会会長賞	13 15
◆審査講評		
作文部門審査講評	山形市立金井小学校校長 佐藤 昌彦	17
図画部門審査講評	寒河江市立高松小学校校長 横山 和弘	18
◆第33回～第44回 入賞一覧		19
◆審査経過の概要		21
◆募集要領		22



ごあいさつ

山形県農業協同組合中央会 代表理事会長 長 澤 豊

第四十四回「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクールに応募いただいた児童・生徒の皆さん、とても素晴らしい作品をありがとうございます。心からお礼申し上げます。

また、入賞された皆さん、誠におめでとうございます。心からお祝い申し上げます。

私たちJAグループは、次代を担う小・中学生の皆さんに、古くから日本の食卓と国土を育んできた稲作農業、ごはん食と健康の結びつきを見直してもらうため、昭和五二年度からこのコンクールを実施しており、今年度で四十四回目を迎えます。

今回は、県内の小・中学校から作文三九二点、図画九七〇点もの力作を応募いただき、全国コンクールに推薦するとともに、県コンクールにおいては、山形県知事賞、山形県農業協同組合中央会会長賞、優秀賞、学校奨励賞を選考いたしました。

全国コンクールにおいては、作文部門二部で文部科学大臣賞、同部門二部で農林水産大臣賞、同部門三部で優秀賞を受賞する成績を収めました。これは入賞された皆さんのご努力はもちろんのこと、ご指導いただきました学校の先生方をはじめ、ご父兄の皆様、審査委員の先生方、そして山形県ならびに各JAのご支援・ご理解の賜物と心から感謝申し上げます。

今回応募いただいた作品は、田植えや収穫作業、ごはんをおいしそうに頬張る様子などをいきいきと表現したものや、ごはんを通じた家族との温かいつながり、お米やふるさとの素晴らしい価値などを豊かに表現したものなど、心に響く作品ばかりでした。ごはん食や農業の果たす役割の大きさ、ありがたさが素直に表現されており、日本人の生活とお米は、深く結びついていると改めて実感させられました。

どうか皆さん、普段何気なくごはんを食べることが出来る幸せを忘れな

いでください。また、お米をはじめとした農畜産物を作る農家の苦労や努力を感じ、感謝の気持ちを大切にしてください。そして、自然や生き物すべての命を大切にすることを、いつまでも持ち続けてください。

現在、日本は、世界中の国々と貿易を行い、食料の多くを外国から輸入しています。皆さんは、わたしたちが毎日食べている食べ物が、どこで作られたものなのか知っていますか。食べ物全体のうち、どのくらい日本国内でつくっているかを示す食料自給率は三七％であり、先進国の中では最低の水準にあります。世界的には、人口の増加により食料が足りなくなるのが心配されており、それぞれの国が食料自給率を向上させることが大事なことだと考えています。

私たちJAグループは、地元産をはじめとした国産農畜産物の消費拡大や皆さんの安全な食生活の確保に向けて、日本人の主食である「ごはん」を中心とした日本型食生活の推進、学校給食における安全・安心な農畜産物の提供、「食」と「農」の大切さを伝える食農教育の推進に向けた取り組みに「層努力してまいります。そして、農業者や地域の皆様にとつて「なくてはならないJA」となるよう、引き続き様々な取り組みを進めてまいりますので、これからもご理解・ご協力をお願いいたします。

さて、本県産「つや姫」は、平成三年のデビュー以来、多くの方々からご好評をいただき、皆さんにとってもお馴染みのお米となったことと思います。また、「昨年に本格デビューした「雪若丸」も、「つや姫」に負けず劣らずご好評いただいております。本県では、「つや姫」や「雪若丸」のほかにも、「はえぬき」などのおいしいお米をたくさんつくっています。私たちは、これからも安全・安心でおいしいお米を皆さんにお届けしてまいりますので、応援をよろしくお願いいたします。

最後に、当コンクールをますます発展させていただきますよう皆様からのご協力をお願い申し上げ、ごあいさつとさせていただきます。



尾花沢市立鶴子小学校二年
秋保 一路



新庄市立萩野学園一年
工藤 壮真

●山形県知事賞●

「おいしいうちのごはん」

●山形県農業協同組合中央会会長賞●

「コンバインすげいな」

第44回「ごはん・お米とわたし」

作文・図画コンクール入賞一覧

(敬称略)

全国審査における入賞者

○文部科学大臣賞	(作文1部)	青木 舞桂	米沢市立北部小学校	3年
○農林水産大臣賞	(作文2部)	園部 杏莉	庄内町立余目第三小学校	6年
○優秀賞	(作文3部)	丸谷 真嬉	鶴岡市立鶴岡第三中学校	1年

山形県審査における入賞者

作文部門

●1部 (小1～3年)

山形県知事賞	相田 瑛舞	南陽市立中川小学校	2年
山形県農協中央会会長賞	田村 理音	米沢市立北部小学校	2年
優秀賞	横山 莉子	山辺町立作谷沢小学校	3年
	菅原 菜央	東根市立東根小学校	3年
	矢口 美颯	最上町立向町小学校	2年
	北澤 優志	米沢市立上郷小学校	2年
	森谷 茉南	鶴岡市立羽黒小学校	3年

●2部 (小4～6年)

山形県知事賞	安部くるみ	米沢市立興譲小学校	5年
山形県農協中央会会長賞	宗形 柚希	山形市立東小学校	6年
優秀賞	後藤 怜皇	最上町立向町小学校	6年
	安食 日涼	戸沢村立戸沢小学校	5年
	我妻 尚哉	高島町立和田小学校	4年
	伊藤 清子	米沢市立南原小学校	4年
	佐藤 舜太	米沢市立塩井小学校	6年

●3部 (中1～3年)

山形県知事賞	丸谷 真嬉	鶴岡市立鶴岡第三中学校	1年
山形県農協中央会会長賞	小林 柊也	川西町立川西中学校	3年
優秀賞	早坂 菜摘	米沢市立第一中学校	3年
	戸田 和幸	米沢市立第一中学校	1年
	山崎 遥斗	米沢市立第二中学校	3年
	保科 紅葉	川西町立川西中学校	2年
	中目 量太	鶴岡市立鶴岡第三中学校	1年

●学校奨励賞

米沢市立北部小学校
鶴岡市立鶴岡第三中学校

図画部門

●1部 (小1～3年)

山形県知事賞	秋保 一路	尾花沢市立鶴子小学校	2年
山形県農協中央会会長賞	工藤 壮真	新庄市立萩野学園	1年
優秀賞	関 心和	白鷹町立鮎貝小学校	1年
	大場 雄翔	最上町立富沢小学校	2年
	石山 蒼	最上町立富沢小学校	2年
	鈴木 瑠桜	米沢市立塩井小学校	2年
	佐藤 花音	三川町立東郷小学校	3年

●2部 (小4～6年)

山形県知事賞	木村 佳恵	山形市立東小学校	4年
山形県農協中央会会長賞	星川 煌	尾花沢市立尾花沢小学校	6年
優秀賞	西尾アシュリン	尾花沢市立尾花沢小学校	4年
	尾崎ありさ	尾花沢市立玉野小学校	5年
	尾崎 翠玖	尾花沢市立玉野小学校	6年
	狩野 祐輔	高島町立屋代小学校	6年
	岩浪 廉	鶴岡市立京田小学校	5年

●3部 (中1～3年)

山形県知事賞	古内 慧士	山辺町立山辺中学校	3年
山形県農協中央会会長賞	朝倉 春花	山形市立金井中学校	1年
優秀賞	原田 陽菜	山形市立金井中学校	2年
	鈴木妃依里	山形市立金井中学校	2年
	川口 憧	山辺町立山辺中学校	3年
	宗田 萌	山辺町立山辺中学校	3年
	齋藤 美維	鶴岡市立羽黒中学校	2年

●学校奨励賞

尾花沢市立尾花沢小学校
山辺町立山辺中学校

●山形県知事賞●

「おにぎりを食べるわたし」

山形市立東小学校四年

木村 佳恵



●山形県農業協同組合中央会会長賞●

「試合の後はうまいなあ」

尾花沢市立尾花沢小学校六年

星川 煌



●山形県知事賞●

「元気の源」

山辺町立山辺中学校三年

古内 慧士



●山形県農業協同組合中央会会長賞●

「繋がりあるお米と私達」

山形市立金井中学校一年

朝倉 春花



作文1部

文部科学大臣賞

日本の「うん」おそまつさま」

米沢市立北部小学校三年

青木 舞桂

「ごちそうさまでした。」
「おそまつさまでした。」

これはいつもの私たちのあいさつ。まるで合言葉のように、私が「ごちそうさま」というと必ずおばあちゃんは「おそまつさま」と言う。

そこで私はその意味を調べてみた。すると、「自分が料理をしてふるまったとき、その相手に『大した料理ではありませんが』というけんそんの気持ちをあらわす言葉」と書いてあったので、私はおばあちゃんに「今日は大好きなドライカレーと五こく米だから、ごちそうだよ。」と言うと、おばあちゃんは「なるほどね。」と言ってにつこり笑った。

おいしいごはんのお礼に、私はいつも食べ終わった食

器やおなべ、炊飯器のおかまやしゃもじを二人であらう。たらいに水を張ってから洗剤を二、三滴たらし泡立て器でかきまぜる。泡のたらいの中で食器は気持ちよさそうにしている。手際よく食器を洗い終わると、おばあちゃんはいつも「上手だね。ありがとう。」とほめてくれるから、次の日私は一人でご飯とおみそ汁を作ることにした。

お米を水洗いするときには栄養をにがさないようにやさしく洗い、水の量は少し多めで、そのまましばらくお米に水を吸わせてから炊く。ご飯が炊き上がるまでの時間、今度はとうふとわかめのおみそ汁作り。だし汁を入れたなべを火にかけて材料を入れ、煮立たせてから火を止めてみそを溶き入れると、おみそ汁の出来上がり。炊き立てのご飯とおみそ汁を盛り付けて、おばあちゃんに食べてもらう。おばあちゃんは全部ぺろりと食べてから、「今まで食べたご飯の中で一番おいしかったよ。ごちそうさまでした。」と言ってくれたので、私はけんそんして「おそまつさまでした。」と言った。私の心の中でさわやかなそよ風が吹いたようなそんな気がした。

作文2部

農林水産大臣賞

庄内米は最高のお土産

庄内町立余目第三小学校六年

園部 杏莉

「お米がお土産なの？」この夏、東京で暮らす親せきのおじさんの家に遊びに行くことになった私が、母が準備したお土産を見て言った言葉です。「お米をもらっても喜ばないでしょ。もつといいお土産ないの。」と続けました。母は庄内のお米は自まんのできるおいしいお米で、どんな物より喜ばれるからと言って、東京に行く私より一足先にお米を東京に送りました。

初めての東京一人旅。飛行機に乗りながら東京で行きたいお店や町並みを想像して、心は躍っていました。ただ、お土産はもつとおしゃれな物にしてほしかったな、とずっと心に引かかっていた。空港に着くとおじさん夫婦が笑顔で迎えてくれました。一人で乗った飛行機の旅ということもあって、東京の家に着いた頃にはひどく疲れていましたがそんなときでもお腹は空いてきて夕食の時間となりました。「庄内米届いたよ。ありがとう。」おじさん、おばさんの言葉になぜか恥ずかしくなって、「こんなものでごめんね。」と言いました。すると二人は「何よりのお土産だよ。山形は何でもうまいから。杏莉は毎日おいしい物が食べられて幸せだなあ。」と話

しました。自然に囲まれて暮らすことの幸せ、東京には色々あるけれど、それは人が造りだした人工の物で見た目は華やかだけど、おじさんは自分の生まれ育った場所でもある庄内が誇りでもあり、庄内米はいくつになっても自分に欠かすことはできないと話してくれました。私は急に恥ずかしくなり、夕食に出されたお土産の庄内米を急いで口にしました。するといつもの味にほっと落ちつくのを感じました。そして庄内の風景が目につくたび、東京に来て初日とこのに帰りたい気持ちにもなっていました。

翌日東京の街を歩きました。次々とくる電車。どこに行っても大勢の人。キラキラかわいいお店。話題の行列のできるスイーツ。どれも楽しくて新鮮で時間はあっという間に過ぎました。でも、大勢の人をかき分けながら歩く私の心には、なぜかずっと庄内の風景がうかんできます。鳥海山に種まきじいさんが現れる頃に田植えが始まり、夏には青々とした海のような田んぼにボツンとたたずむサギ。秋には黄金色の稲が風にびき、冬には田んぼに雪が降り積もる銀世界。元気がないときもお米を食べると不思議に元気が出る事。一粒のお米には七人の神様がいて、決して粗末にするなど小さな頃から教えてもらったこと。考えると私の日々の暮らしにはいつも田園風景があり、その地で多くの手間をかけて作られたお米で私の体が出きている事。

「山形には何もない。」という考えは間違っていました。庄内は私を育ててくれた大切な場所、すべてがあるところです。誰からも喜ばれる庄内米を、私はこれからもお土産に選びたいと思います。

●山形県知事賞●

キコはじめてのおかゆ

南陽市立中川小学校二年

相田 瑛舞

「ママは今からキコのおかゆをつくるから、めんどくみてね。」

今日は、いもうとのキコがはじめておかゆをたべる日です。キコは、かみの毛がくるくる回してほつがプニプニしているかわいい赤ちゃんです。わたしは、いつもキコにミルクをあげていたので、

「えっ、ごはんたべられるの。」
と、とってもびっくりしました。

ママがだいどころに行きました。わたしもキコをだっこして、ついて行きました。

ママがおかゆをつくりはじめると、なべからグツグツジュウジュウ音がして、あまいにおいがしてきました。

「できたよ、すこしたべてごらん」
とママが、ちやわんにもつてくれました。わたしは二口

たべてみました。

「あじがついてないのにこんなにあまいの。」

おかゆは口の中であけて、おいしくてびっくりしました。ついに、キコがはじめておかゆをたべるときがやってきました。わたしは、たべてくれるかしんぱいでドキドキしました。

「たべられるかなあ。ああん。」

と言いながらママがスプーンでキコの口に入れました。キコは、わらっておててを口の中に入れてベトベトしながら、おいしそうにたべていました。

あれから、まい日キコは、おかゆをたべて体がぐんぐん大きくなりました。

「おかゆをたべられるようになったら、なんだか大きくなつたね。」

とわたしが言ったら、ママが

「そうだね。おこめにはパワーがあるんだね。」

とわらって言いました。

今はおかゆをたべているキコも、もうすこしたつと、いっしょにおにぎりをたべられるようになるんだろうなあ。たのしみだなあ。

●山形県農業協同組合中央会会長賞●

おこめは色じゃない

米沢市立北部小学校二年

田村 理音

「また、かたくてちや色のごはんかあ。」

「白いごはんがたべたいなあ。」

わたしは、げんまいがきらいでした。

わたしは、かぞくと「はなちゃんのみそしる」というえいがを見ました。はなちゃんがかよっていたほいくえんでは、体にいいものだけをたべていました。なつとう、みそしる、げんまいでした。おとうさんがかりてきたおみその本にも、げんまいがいいと書いてあったそうです。それで、おうちでも、なつとうやみそしる、げんまいをできるだけたべることになりました。なつとうやみそしるはまえとおなじでおいしいです。だけど、げんまいだけは、どうしても大すきになれませんでした。げんまいは白いごはんがちがつて、かたいし色

がちやうといやでした。わたしは、雪わか丸が「ぼんすきです。ほかのおこめよりやわらかくてたべやすいし、においまでおいしいからです。おかあさんが、いまたべているおこめも雪わか丸だよ」と言ったのでびっくりしました。げんまいの雪わか丸が、白とおなじおこめとはちつとも思えませんでした。

五月に、田んぼアートの田うえにさんかしました。足にどろがくっついてすすむのがたいへんでした。とちゅうで休みたくなつたけれど、下はどろだからおしりをつけなくてつかれました。でも、おおぜいの人がいっしょうけんめいさいごまであきらめないでうえていたので、わたしもがんばりました。そしたらすてきな絵の絵ができました。いっしょうけんめいうえてくれてありがとうという気もちになって、すききらいしないことにきめました。うえるだけではなくて、そだてたりしんぱいして見てくれたりする人、おこめをはこんでくれる人、うつてくれる人、それぞれがいろいろなことにかつやくしてくれるからたべられるおこめ。白でもちや色でもかんけいなくおいしくたべようと思います。

●山形県知事賞●

「ご飯と私の夏休み」

米沢市立興譲小学校五年

安部くるみ

ピロリン、ピロリン。

この音を聞いて私は、真つ先にすい飯器の側にかけてやる。というのは、お米をとぎ、セツトするのが私の役わりなので、たき上がり具合がとても気になるからだ。

夏休みに入る数日前。

「くるみも授業で家庭科が始まったし、キャンプでご飯をたいたり、カレーを作ったりしたから今年の夏休みのお昼は、くるみに「ご飯をたいてもらって、ご飯係と一緒にして、お昼「ご飯を作ってみようよ。」と、母から言われたのがきつかけだ。私は、楽しみと不安が入りまじった気持ちでいっぱいだったが、とてもうれしかった。

と言われ、少しはずかしかった。

お昼すぎ、家族で私のたいたご飯で昼食をとる。母がご飯をたくと、みんな何も言わないけれど、私がたいたご飯だと、

「いいんじゃない。固さも良いね。」

などの感想を言ってくれてうれしかった。中でも祖母は、私のたいたご飯を誰よりも喜んでくれる。祖母と一緒に「ご飯を食べる時は、ご飯の水かげんを数ミリ多めにする。先日退院してきたばかりの祖父は、食よくが落ちたため、ご飯を少しやわらかくして祖父の好きなわかめおにぎりを、たまご位の小さな大きさにして二つにぎってあげる。すると、食べやすいのか、喜んで食べてくれる。

私は、この夏休みにおいしく「ご飯がたけるようになって。ご飯は、家族の健康と体調にやさしくよりそってくれる。私は、「ご飯をたく時に味わったきんちよう感とうれしさを、いつまでも忘れずに、もっとおいしい「ご飯をたけるようになって、家族の笑顔が絶えないようにしていきたい。

いざ、夏休み。私のきんちようしながらお米をといでいるすがたを見て、母が米粒を一つもこぼさないように、ザルの上に台所用ネットをはってくれ、そこからとぎ汁を捨てられるようにしてくれた。お米と私のことを思ってくれた母の気持ちがありがたいなあと思った。

すい飯器のスイッチを入れると、母と一緒に、その日のおかずやみそ汁を作り始める。けれど、毎回「ご飯の出来ばえが気になって、ご飯がたける音、ご飯がたけるあまい香りがいつも以上に気になり、自分でたとふだん気にとめない事も気になるものなんだなあ」と実感した。

そして、ご飯がたき上がり、白い湯気の中からふつくらとした、つやつやのご飯を確認すると安心する。一口味見をして、この家のご飯の味だと、さらに安心する。母と祖母は、いつもこんなにもどきどきしたり、不安になったりするのだろうかと思つて聞いてみたら、「何十年もたっているから、くるみみたいにきんちようしないよ。くるみのすがたは新せんだなあ。」

●山形県農業協同組合中央会会長賞●

五月のおくり物

山形市立東小学校六年

宗形 柚希

五月の子供の日が来る頃、我が家には決まって届くものがある。それは、酒田に住む祖母がおくつくれる「笹巻き」だ。その「笹巻き」はいつも祖母の手作りで、三角形の笹の中に米が入っていて、グルグル長い枝のようなもので巻いてあり、まるでふりこのような面白い形をしている。祖母が言うには、毎年の出来ばえは同じではないようだ。「今年はもち米を入れすぎて笹が破れた。」「今年は少し柔らかくなつた。」「今年は少し小さくなった。」と話す。私には毎年決まつて何一つ変わりはなく美味しい「笹巻き」で、届くとすぐに飛びつくものだ。私は、その「笹巻き」を笹から取り出し、青きな粉と砂糖を混ぜ合わせた、きな粉砂糖をまぶして食べる。母と弟は、黒みつをつ

け、それにきな粉砂糖をまぶして食べる。このように、食べ方は色々だが、家族みんなが、祖母の作る「笹巻き」が大好きだ。毎年送ってきてくれる「笹巻き」。私はもう十一歳、幼い頃からずっとこの時期に食べてきたのだ。

私は、最近になって、なぜ五月のこの時期に「笹巻き」なのかと疑問に思い、調べてみた。すると「笹巻き」は、昔から五月五日の子どもの節句に子供の成長を願って、また旅立ちに無病息災を祈って作った食べ物だということを知ったのだ。そしてその時、私達の成長や無病息災を願って作り、送ってくれる祖母の温かい気持ちに気づかされた。私は、急に遠く離れている祖母の顔が見たくなり、声が聞きたくなった。私は、電話で祖母にどうやって「笹巻き」を作るのかを聞いてみた。笹の葉は下処理をして中に入れるもち米は、普通のお米を研ぐ時と同じだけれど、水に浸す時間を長めにする、笹を三角に折ってその中へもち米を入れて巻き、鍋でゆでると話してくれた。母も今の私のように幼い頃から「笹巻き」を食べてきたそ

うだ。その「笹巻き」は、私が生まれる前に亡くなってしまった私の曾祖母にあたる、みどりおばあちゃんが作ったもの。私の母も今の私のように祖母の作る「笹巻き」を食べてきたことに驚いた。そして歴史や伝統を知り、嬉しく思った。私の母はまだ「笹巻き」を作ることができない。しかし、毎年送られてくる頃、「そのうちおばあちゃんに笹巻きの作り方を教えてもらわない」と、私に話す。曾祖母から祖母へ、祖母から私の母へ、そして私が大きくなって、家族や孫へ笹巻きの食リレーをつないでいくのかと思うと、とても楽しみだ。絶やすことなく、これからも引き継いでいきたい祖母の「笹巻き」……。美味しい五月のおくりものだ。

これからもずっとずっと食べていきたい。大好きな祖母の「笹巻き」。

●山形県知事賞●

丁寧なご飯

鶴岡市立鶴岡第三中学校一年

丸谷 真嬉

私の家には炊飯器がありません。だから私は、ご飯は鍋で炊くのが普通だと思っていました。鍋では予約ができないので、お母さんが仕事で忙しい時は私がご飯を炊いています。

「丁寧にといでね。丁寧に水加減してね。丁寧に時間を計ってね。」

お母さんの「丁寧に」という言葉は、私には面倒に聞こえました。

「いいじゃん。べつに、丁寧じゃなくても。」と私が言うと、

「上手にできなくてもいいから、丁寧さは忘れないで。」と言われて、ますます面倒になってしまいました。それに、小学校の調理実習で初めて炊飯器を使っ

らは、鍋で炊くのは時代遅れだと思いました。だから家に帰って

「うちでも炊飯器を買おうよ。」

と、お母さんに言いましたが、

「鍋の方が丁寧だから良いの。」

と言って買ってくれませんでした。

今年の夏休み、私は六泊七日のキャンプに行きました。鶴岡市の金峰少年自然の家から遊佐町の海浜自然の家まで、金峰山に登ったり、川をカヌーで下ったりしながら六十キロを歩きました。夜は外にテントを張って、食事自分たちで作りました。一日目はキャンプ場に泊まったので鍋でご飯を炊きました。

「おいしく炊けて班の六人が喜んでくれるといいな。」そう思いながら炊くと、お米をとぐ時も、水加減も火加減も「丁寧に。丁寧に。」と、心の中で言っていました。あんなに面倒くさかった「丁寧」が、自然にできていることにおどろきました。そうしてできたご飯は、私が炊いたご飯の中で一番おいしくできました。班のみんなも、

「おいしい。」

と喜んでくれて、私も嬉しくなりました。二日目は炊事場所がなかったのでパックのご飯をお湯で温めて食べました。パックのご飯は温めるだけで食べられるのでとても便利でした。でも、できたご飯を食べてみると味も香りも鍋で炊いたご飯とは全く別でした。私の班には小学四年生で体も小さい潤ちゃんと言う女の子がいました。潤ちゃんはパックのご飯はあまり食べませんでした。鍋で炊いてあげたいな。と思いました。その後も麺類やパン、パックのご飯が続いて、最後六日目の夜は海浜自然の家で調理ができました。ご飯だけではなく、他の料理を作る時も「丁寧」と、心の中で言いながら作ると、自然に班のみんなが喜ぶ顔がうかんできて、私も嬉しくなりました。そして丁寧に作った料理はやっぱり、みんながおいしく食べてくれました。あんなに面倒だった丁寧なご飯でこんなに楽しい気持ちになることにびっくりしました。

家に帰ってきて、私は辞書で「丁寧」を調べてみました。

●山形県農業協同組合中央会会長賞●

日本一の米つや姫

川西町立川西中学校三年

小林 柊也

「いただきます。」

僕は、そう言つてふくらと炊き上がったごはんを毎日おいしそうに頬張りながら食べる。このごはんこそが僕の力の源です。

僕のじいちゃんは農業をされていて、つや姫やコシヒカリなどたくさんのお米を育てています。僕はその中でも、じいちゃんが育てた、山形県産つや姫が特に大好きです。その理由は、甘みやうまさも他の米とちがうからです。

僕は幼い頃からつや姫を食べて育ちました。小学校からは野球を始めて食べる量が少し増えました。ここぞという大事な大会や試合の日には、ごはんをしっかり食べてかけることで、力になりヒットやホームラン

「注意深く念入りであること。動物や言葉遣いが、礼儀正しく、心がこもっている。」

そうか。と思いました。丁寧というのは、心がこもっていることをいうのだとわかりました。丁寧にするということは相手のことを思いながらすること。だから、丁寧なご飯は心がこもっていておいしかったのだと思います。お母さんはご飯を炊く時、少し柔らかく炊いたり、おこげを作ったり、野菜や雑穀を混ぜて炊いたり、その時の家族の体調を考えて炊いています。火加減や時間を少し変えたりしながら、丁寧に炊いています。だからお母さんは炊飯器ではなく鍋でご飯を炊きたいのだとわかりました。炊飯器も、パックのご飯もとても便利です。でも、いつも便利なことばかりでは丁寧な気持ちを忘れてしまいます。丁寧なご飯は心がこもったご飯。丁寧は相手も自分も幸せな気持ちにしてくれる。私たちの暮らしはどんどん便利になりますが、丁寧さは忘れないようにしたいです。

ンを打てるようになりました。また、「ごはんをたくさん食べてきたから大丈夫!」と、自信を持たせるような役目も、果たすようになりました。中学生になつて、運動量がさらに増え、食べる量もすごく多くなりました。中学校入学当時は、細くてこのままでは試合では打ったりすることはできないと思い、体をつくるためにも一番はごはんを食べました。中学では投手を任せられるようになり、バッターでは四番としてチームを引っぱる役になりました。そのため、試合の合間に栄養を補給するための補食としておにぎりを食べました。食べることで、力が出て三振を取ったり、ホームランを打つことができました。最後の大会では、つや姫を食べたおかげで、一回戦を勝ち準決勝では、いつもコールドゲームで負けている相手に勝てませんでした。一点差とすごくいい試合ができました。お米を食べることで体も大きくなり、県選抜選手にも選ばれました。県選抜でも活躍することができ、もつとお米をいっぱい食べようと思いました。部活を引退し、受験としっかり向き合うように

なった今、やっぱりテストのある朝はしつかりごはんを食べていくと安心して、テストに臨むことが出来ます。このように、私が生まれてからここまで大きくなる過程には、ごはんは身体にも心にも大きな良い影響を与えていたのだなあと今、改めて気づきました。改めて考えることをしない限り、私にとつてごはんは当たり前前の日々に当たり前にあるものだったのです。

次なるステージの高校では、野球を続けたいと思っています。部活を引退しましたが、ごはんの量はもつと増やし、一年生ではベンチに入り、三年生の時には、甲子園に出場し、お米を汗を流しながら、どの季節のどの作業にも稲を守り育て、それを食べさせてくれている、じいちゃんや家族に感謝の気持ちを伝えられるようにしたいです。また、プロに入り、この山形をつや姫のおいしさを全国に伝えることができたらいいなと思っています。そして、もつとつや姫が全国的に有名になるようにしたいと思っています。そのため、お米を力や自信に変え、これからも頑張っていきたいです。

山形市立金井小学校校長 佐藤 昌彦

第四十四回「ごはん、お米とわたし」作文コンクールに、全国の小中学校から五万六千六百六十点、県内で三百九十二点の作品が寄せられました。今年の県内応募作品の特徴としては、特に、米作りや生活の中での具体的な体験を題材とした、大変生き生きとした作品が多かったように思います。その中で、審査員を惹きつけた作品に共通している点を紹介します。○「お米や」ごはんを見つめることを通して生まれた、家族の絆や自分の成長、食と心のつながり等、より深い気づきが書かれている。○体験で感じたことを根拠として、伝えたい自分の思いや主張が、説得力をもつて力強く書かれている。また、本県の作品が文部科学大臣賞・農林水産大臣賞・優秀賞に入賞するという素晴らしい結果となりました。ここでは、県審査において山形県知事賞、山形県農業協同組合中央会会長賞を受賞された作品を紹介します。

一部（小学校二年生から三年生）

○「キコ、はじめてのおかゆ」
（南陽市立中川小学校二年 相田瑛舞 山形県知事賞）
いつもミルクを飲んでいた妹がおかゆを食べられるようになったことに驚きながらも、その成長を自分のことのように喜んでいえることが伝わってくる作品です。お母さんがおかゆを作っているときの様子や妹が初めておかゆを食べたときの様子など、五感を働かせて観察したことが豊かに表現されているので、作文を読んでいる、まるでその場にいるような気持ちになりました。妹と一緒におにぎりを食べられる日を楽しみに待つという終わり方もととても素敵です。
○「おこめは色じゃない」
（米沢市立北部小学校二年 田村理音 山形県農業協同組合中央会会長賞）
お米を「色」という視点でとらえて表現しているところに理音さんの個性が光ります。かたくて、茶色で、あまり好きになれない玄米。しかし、そんな玄米を食べているときに、その品種が自分の大好きな雪若丸だと知り、玄米に対する思いが変わっていきます。田植えをした経験の思い出したり、たくさん人の努力があつてお米を食べられることに気づいたりなど、「お米は色じゃない」と思えるようになるまでの過程が読み手に伝わるようにていねいに書かれています。

二部（小学校四年生から六年生）

○「ごはん私の夏休み」
（米沢市立興譲小学校五年 安部くるみ 山形県知事賞）
「ごはんを炊くことに挑戦した様子」が、素直に表現された作品です。炊飯器の音、炊きあがったごはんのつや、た้าย香、我が家の味を感じた安心感など、聴覚・視覚・嗅覚・味覚など、五感に訴える描写をすることで、読み手に情景が伝

僕のごはんへの熱い思いはそう簡単には変わることはありません。ごはんを食べると日本人でよかったと思います。これからも、自分を成長させてくれたごはんの一粒一粒に感謝の気持ちをもちつつ大切にし、残さず食べていきます。

わってきます。退院したばかりの祖父に、水を多めにしたやわらかいごはんのおにぎりをにぎってあげる描写からは、思いやりあふれた家族の絆が感じられます。作品を通して、ごはんが家族をつなぎ、どの世代にもやさしく寄り添う素晴らしい食材であることが再確認できました。

○「五月のおくり物」

（山形市立東小学校六年 宗形柚希 山形県農業協同組合中央会会長賞）
五月になると決まって届くおくり物『笹巻き』。台所に吊された振り子のような笹巻きは、山形の家庭ではよく見かける風景だったと思います。笹巻きの様子や食べ方など、その風景を読み手が思い描けるように丁寧に書くことができています。また、笹巻きに込められた思いをたどることで、何世代も続く家族の絆に思いを向け、お母さんも自分もその流れの中に生きているのだという気づきは、大変素敵だと思います。作品全体に柚希さんの豊かな感性があふれています。

三部（中学生）

○「丁寧なごはん」

（鶴岡市立鶴岡第三中学校三年 丸谷真嬉 山形県知事賞）
これまでの見方が一変し、面倒に聞こえた「丁寧に」という言葉が、「心をこめて」という相手への思いやりの言葉だったという納得。その心の動きが具体的な体験を通して率直に描写され、大変説得力があります。お母さんと真嬉さんの会話も臨場感があつて引き込まれます。ごはんを「丁寧に」炊いてくれる母への感謝と共に、便利さが優先されてしまいがちな現代にあつて「丁寧なごはん」は私たちを幸せな気持ちにしてくれるかけがえのない「飯なのだ」というメッセージも受けとりました。

○「日本一の米つや姫」

（川西町立川西中学校三年 小林柊也 山形県農業協同組合中央会会長賞）
「ごはんこそが僕の力の源。この結論に気づいていく過程を、ごはんと野球の関係を丁寧にたどりながら語りました。その過程には自分を見つめる目の確かさがあり、素直で簡潔な言葉には少年らしい清々しさが溢れています。」「じいちゃんの育てたつや姫」は、野球少年の柊也さんに逞しい体と勝負の前の安心感を与えてくれました。そして、どんなことにも自信をもつて挑戦する心を育ててくれました。まさに「日本一の米」です。祖父への感謝と「ごはんへの熱い思い」が率直に伝わってきます。

県学校奨励賞

今年度の山形県学校奨励賞は、米沢市立北部小学校と鶴岡市立鶴岡第三中学校が受賞されました。

寒河江市立高松小学校校長 横山 和弘

第四十四回「ごはん・お米とわたし」図画コンクールには、全国の小・中学校から六万七千六百六十七点の作品が寄せられました。山形県からは、昨年を上回る九百七十点の応募がありました。本コンクールに毎年たくさんの方の応募があることはうれしいことです。日本の食卓を作り上げてきた大切なごはん・お米に対する興味関心がより一層高まってきているといえるのではないのでしょうか。

今回集まった作品にはごはんやお米にまつわる様々な場面が描かれていました。おいしそうにごはんやおにぎりを食べる様子、身近な人たちと協力して田植えや稲刈りをしている場面、青々とした田園風景や金色に輝く稲穂の情景など、お米に対する一人一人の思いが表れていました。特に印象に残ったのは、おいしいごはんや幸せな笑顔、家族や友だちとのあたたかい交流、山形の美しい自然です。どの作品からも一生懸命さやあたたかさを感じ、審査を終えてほっこりした気持ちになりました。

すばらしい多くの作品から、山形県知事賞、山形県農業協同組合中央会会長賞、県優秀賞、県学校奨励賞が選考されました。ここでは、山形県知事賞、山形県農業協同組合中央会会長賞を受賞された作品を紹介します。

一部（小学校二年生から三年生）

○「おいしいよ　うちのごはん」

（尾花沢市立鶴子小学校二年　秋保路　山形県知事賞）

画面いっぱい描かれたほかほかのごはん。本当においしそうです。このふくらしたごはんは、きつと背景に描かれている田んぼから穫れたものなのでしょう。「大事に育てたお米がこんなにおいしいごはんになった」。そんな喜びが伝わってきます。のびのびしたタッチでお米一粒粒を想いを込めて大切に描いたすばらしい作品です。

○「コンバイン　すごいな」

（新庄市立萩野学園年　工藤壮真　山形県農業協同組合中央会会長賞）

黄金色に輝く稲穂の中を走るコンバイン。色も形もかっこいい、よく動く一台なのでしょう。にっこり笑顔の二人から自慢の一台であることが伝わってきます。ぱつと目を引く鮮やかな色づかいと、クレヨンを感じを生かしたポップで愛らしい描き方が、見る人の心まで明るく楽しいものにしてくれます。素直な心で楽しみなが描かれた見事な作品です。

二部（小学校四年生から六年生）

○「おにぎりを食べるわたし」

（山形市立東小学校四年　木村佳恵　山形県知事賞）

おにぎりをおいしそうにむしやむしや食べる様子がよく表れています。おにぎりを食べるわたしの表情やごはん一粒一粒を丹念に描き、見る人も幸せな場面が共有できる作品です。画面いっぱい人物とおにぎりを描き、主題を強調しています。また、遠近感をもたせ、背景を抑え気味に描いていることでわかりやすく美しい作品になっています。

○「試合の後はうまいなあ」

（尾花沢市立尾花沢小学校六年　星川煌　山形県農業協同組合中央会会長賞）

一生懸命がんばった試合後のおにぎりのおいしさがよく伝わってきます。画面の中央に人物を描き、うれしそうにおにぎりを食べる様子を素直に描いています。両足を広げて立ち、夢中に食べる様子が人物の気持ちをよく表しています。三人の視線をおにぎりに向け、柔らかな線ときれいな色彩で微笑ましくあたたかい作品に仕上がっています。

三部（中学生）

○「元気の源」

（山辺町立山辺中学校三年　古内慧士　山形県知事賞）

山形の自然を背景に実ってきた稲穂が印象的に描かれています。稲穂を画面の隅に寄せて、絵の広がりや景色の奥行きを工夫して表現しています。中学生らしく、観察をもとにしながら、絵の具の混色と重色、筆跡を効果的に活かしています。山形の田園風景がさわやかに描かれている作品です。

○「繋がりのあるお米と私達」

（山形市立金井中学校年　朝倉春花　山形県農業協同組合中央会会長賞）

手に持つおにぎりから作者が想いを馳せたことを、画面に散りばめて表現しています。豊かな田園とともに鳥たちも暮らす私達の自然環境や、黄金色の稲穂を一本ずつ丁寧に描き、おいしいお米が実ったことが想像できます。作者の愛情、ふるさにと対する思いが伝わってくる作品に仕上がっています。

山形県学校奨励賞

今年度の山形県学校奨励賞は、尾花沢市立尾花沢小学校と山辺町立山辺中学校が受賞されました。

（敬称略）

「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクール 第33回、第44回 入賞一覧

作文部門

図画部門

第38回	第37回	第36回	第35回	第34回	第33回
山形県 ● 県知事賞 佐々木美羅（米沢市） 高橋満里奈（新庄市） 小野寺涼太（鶴岡市） ● 県中央会会長賞 阿部　聖音（酒田市） 佐藤　礼夢（鶴岡市） 安部　優香（米沢市） ● 優秀賞 上林　奈央（鶴岡市） 津藤　奏（山形市） 小野幸治郎（大蔵村） 早坂　大翔（大蔵村） 安部　真桜（米沢市） 田村　健人（米沢市） 諏訪　琳音（鶴岡市） 大滝　星矢（鶴岡市） 佐藤　陽理（南陽市） 伊藤　日高（鶴岡市） 伊藤　優太（山形市） 鈴木　千絵（南陽市） 高橋真惟子（南陽市） 石原　花凜（飯豊町） 清和　怜真（鶴岡市） ● 学校奨励賞 大蔵村立大蔵小学校 鶴岡市立朝日中学校	山形県 ● 県知事賞 伊藤　風牙（鶴岡市） 井上　瑞貴（山形市） 松寄　大吾（米沢市） ● 県中央会会長賞 佐竹　　巧（山形市） 笹本　悠奈（庄内町） 我妻隆太郎（米沢市） ● 優秀賞 早坂　大翔（大蔵村） 朝倉　愛子（南陽市） 丸山　美優（鶴岡市） 渋谷　結（鶴岡市） 佐藤　光（鶴岡市） 池田　結（庄内町） 會田　空翔（山形市） 森　優奈（米沢市） 佐藤みのり（庄内町） 齋藤　結月（鶴岡市） 須貝　麗夢（米沢市） 小野寺拓海（鶴岡市） 高内　滯奈（山形市） 井上　れな（鶴岡市） 遠藤　美月（鶴岡市） ● 学校奨励賞 鶴岡市立朝日小学校 米沢市立第四中学校	山形県 ● 県知事賞 五十嵐まりあ（山形市） 土門　匠（天童市） 早川　舞乃（山形市） ● 県中央会会長賞 大滝　楓人（鶴岡市） 伊藤　琉圭（鶴岡市） 阿部　咲輝（鶴岡市） ● 優秀賞 森　壮汰（村山市） 安達　涼乃（大石町） 阿部　夢叶（最上町） 横山　陽音（米沢市） 大滝　星矢（鶴岡市） 細矢　愛結（村山市） 矢萩　優生（村山市） 曾根　匠人（米沢市） 佐藤　亜美（鶴岡市） 渡部さくら（鶴岡市） 太田　里美（米沢市） 渡部　羅夢（鶴岡市） 森谷　咲耶（東根市） 舟山　愛理（米沢市） 中村梨恵子（米沢市） ● 学校奨励賞 鶴岡市立朝日大泉小学校 鶴岡市立朝日中学校	山形県 ● 県知事賞 寺崎亜寿美（大石町） 工藤　暢兄（庄内町） 小野　茜（朝日町） ● 県中央会会長賞 佐藤　流偉（鶴岡市） 菅原彩花里（鶴岡市） 菅井　　滯（朝日町） ● 優秀賞 後藤　美空（米沢市） 菅原　菜央（鶴岡市） 鈴木　駿佑（大石町） 會田　空翔（山形市） 鈴木　花凜（米沢市） 伊藤南奈美（鶴岡市） 長沼龍之介（高畠町） 斉藤　健（真室川町） 齋藤　元希（大石町） 小林　一樹（寒河江市） 井上　玲（米沢市） 大橋　鉄郎（米沢市） 坂野　涼子（米沢市） 江部ひふみ（米沢市） 香澤　佑樹（山形市） ● 学校奨励賞 大石町立大石田小学校 朝日町立朝日中学校	山形県 ● 県知事賞 伊藤南奈美（鶴岡市） 難波　葵（鶴岡市） 平山　美紀（山形市） ● 県中央会会長賞 今野　杏唯（鶴岡市） 菅　　瑞季（最上町） 白石みおり（米沢市） ● 優秀賞 原田　真白（米沢市） 會田　空翔（山形市） 押切　真依（最上町） 後藤　大空（米沢市） 押野　明純（鶴岡市） 高橋　歩美（高畠町） 阿部　杏香（鶴岡市） 安部　航大（高畠町） 近藤　舞（鶴岡市） 山下　純平（最上町） 遠藤　ゆい（鶴岡市） 渡部　加菜（米沢市） 高橋　奏（米沢市） 山口　大智（南陽市） 我妻　隆羅（米沢市） ● 学校奨励賞 鶴岡市立朝日小学校 鶴岡市立朝日中学校	山形県 ● 県知事賞 押野　明純（鶴岡市） 鈴木　　彩（鶴岡市） 有賀この美（鶴岡市） ● 県中央会会長賞 會田　空翔（山形市） 伊藤　浩司（鶴岡市） 我妻　隆羅（米沢市） ● 優秀賞 鈴木　　彩（鶴岡市） 井上　秀香（真室川町） 山口　まの（鶴岡市） 伊藤南奈美（鶴岡市） 渡部　寿彦（鶴岡市） 黒井　紀香（鶴岡市） 瀬川　隼矢（庄内町） 金野　華奈（鶴岡市） 保科　拓也（鶴岡市） 尾形　有生（米沢市） 進藤小百合（米沢市） 小野寺奈々（鶴岡市） 安達　景都（鶴岡市） 小野寺千尋（鶴岡市） 小野寺陽奈（鶴岡市） 佐藤　理奈（山形市） ● 学校奨励賞 鶴岡市立斎小学校 鶴岡市立朝日中学校
全　国 ● 優秀賞 小野寺涼太（鶴岡市）	全　国 ● 優秀賞 伊藤　風牙（鶴岡市） 井上　瑞貴（米沢市） 松寄　大吾（米沢市）	全　国 ● 文部科学大臣賞 小林　千紗（高畠町） ● 優秀賞 五十嵐まりあ（山形市） ● 学校奨励賞 高畠町立第二中学校	全　国 ● 文部科学大臣賞 瀬川　隼矢（庄内町） ● 農林水産大臣賞 石森　　泉（鶴岡市） ● 学校奨励賞 庄内町立余目第四小学校 鶴岡市立鶴岡第四中学校	全　国 ● 農林水産大臣賞 齋藤　隼也（鶴岡町） ● 学校奨励賞 鶴岡市立西郷小学校 ● 優秀賞 白石みおり（米沢市） 平山　美紀（山形市）	全　国 ● 優秀賞 鈴木　　彩（鶴岡市）
山形県 ● 県知事賞 阿部　大翔（尾花沢市） 二瓶　寛太（山形市） 平岡　杏奈（山形市） ● 県中央会会長賞 江刺さくら（尾花沢市） 早坂　美羽（尾花沢市） 平澤　育実（山形市） ● 優秀賞 五十嵐羽琉（鶴岡市） 堀江　星琉（尾花沢市） 笹原　月吹（尾花沢市） 佐藤　愛心（村山市） 佐藤　なお（鶴岡市） 渡辺　成美（尾花沢市） 鈴木　来春（尾花沢市） 齋藤　亜子（尾花沢市） 菅藤　優成（尾花沢市） 佐藤　花玲（鶴岡市） 井上　　楓（山形市） 山口　桃佳（山形市） 枝松　伶奈（山形市） 齋原　優衣（山形市） 齋藤　穂歌（山形市） ● 学校奨励賞 尾花沢市立尾花沢小学校 山形市立第九中学校	山形県 ● 県知事賞 押切　零旺（尾花沢市） 渡辺　成美（尾花沢市） 高橋　綾香（山形市） ● 県中央会会長賞 渡會　圭悟（尾花沢市） 江夏　和也（高畠町） 竹田夏奈子（山形市） ● 優秀賞 三浦　匠悟（尾花沢市） 小林　由佑（尾花沢市） 伊藤　拓磨（尾花沢市） 西尾　真央（尾花沢市） 叶野　空和（鶴岡市） 宇田　竜健（庄内町） 東海林玲奈（尾花沢市） 吉田京次郎（山形市） 柴田　唯斗（天童市） 砂田　千夢（鶴岡町） 東海林玲奈（尾花沢市） 平岡　杏奈（山形市） 秋葉ひなの（山形市） 渡邊　美佑（山形市） 平吹　百恵（山形市） 鎌田美乃里（山形市） ● 学校奨励賞 尾花沢市立福原中部小学校 山形市立金井中学校	山形県 ● 県知事賞 齋藤　匠（東根市） 溝越　真輝（尾花沢市） 大滝　日菜（山形市） ● 県中央会会長賞 星川　悠人（尾花沢市） 小幡　あみ（尾花沢市） 半田さつき（山形市） ● 優秀賞 越前　快斗（尾花沢市） 尾崎　李果（尾花沢市） 笹原　優極（尾花沢市） 叶野　空和（鶴岡市） 宇田　竜健（庄内町） 東海林玲奈（尾花沢市） 本間　海成（尾花沢市） 小幡　圭佑（尾花沢市） 三浦　幸司（尾花沢市） 佐藤　俊貴（鶴岡市） 進藤　円（山形市） 梅木　泉美（山形市） 高橋　真優（山形市） 横沢　美玖（山形市） 齋藤　光（南陽市） ● 学校奨励賞 尾花沢市立福原中部小学校 山形市立第九中学校	山形県 ● 県知事賞 柴崎　真人（最上町） 森谷　康平（山形市） 原田　拓夢（山形市） ● 県中央会会長賞 加賀　悠大（鶴岡市） 小幡　圭佑（尾花沢市） 荒井瑛絵子（山形市） ● 優秀賞 高橋　龍馬（大石町） 鈴木　来春（尾花沢市） 笹原　実莉（尾花沢市） 五十嵐一樹（尾花沢市） 西塚　優太（尾花沢市） 星　竜成（米沢市） 佐藤　一貴（天童市） 五十嵐友寿（鶴岡市） 佐藤　俊貴（鶴岡市） 押野　尚道（鶴岡市） 大滝　日菜（山形市） 高橋　里沙（山形市） 吉田　　心（山形市） 遠藤　千央（山形市） 鈴木　里奈（山形市） ● 学校奨励賞 鶴岡市立朝陽第二小学校 山形市立金井中学校	山形県 ● 県知事賞 丹波　優大（尾花沢市） 森谷　康平（山形市） 鈴木　智佳（山形市） ● 県中央会会長賞 菅　　佑菜（最上町） 小幡　剛（尾花沢市） 武田可奈子（山形市） ● 優秀賞 伊藤日向子（鶴岡市） 廣瀬　佳那（尾花沢市） 平井　堅太（高畠町） 宮崎　泰成（鶴岡市） 西尾　文佳（尾花沢市） 海谷　有美（高畠町） 佐賀井千里（鶴岡市） 高橋　　捷（尾花沢市） 今野杏有子（三川町） 前田　和哉（鶴岡市） 荒井瑛絵子（山形市） 田中　敦子（山形市） 阿部　浩宜（山形市） 岸　由麻（山形市） 三浦　彩希（山形市） ● 学校奨励賞 尾花沢市立尾花沢小学校 山形市立第九中学校	山形県 ● 県知事賞 阿部　篤（尾花沢市） 會田　次郎（山形市） 武田可奈子（山形市） ● 県中央会会長賞 菅野　　颯（尾花沢市） 押野　尚道（鶴岡町） 岡部　咲（酒田市） ● 優秀賞 島津　　諒（高畠町） 加藤　翔龍（尾花沢市） 佐藤　愛竜（尾花沢市） 藤井美名保（尾花沢市） 佐藤　崇人（鶴岡町） 伊藤　陸（天童市） 今野杏有子（三川町） 藤田　　麗（鶴岡町） 井上　和也（尾花沢市） 伊藤　浩司（鶴岡町） 佐藤　　緑（山形市） 渡邊　千咲（山形市） 上林　穂末（山形市） 鈴木　里奈（山形市） 加地　明里（米沢市） ● 学校奨励賞 尾花沢市立明德小学校 山形市立金井中学校
全　国 ● 優秀賞 平岡　杏奈（山形市）	全　国 ● 農林水産大臣賞 志田　葉月（山形市） ● 学校奨励賞 山形市立第九中学校	全　国 ● 優秀賞 半田さつき（山形市）	全　国 ● 農林水産大臣賞 西田　知世（山形市） ● 学校奨励賞 山形市立第九中学校	全　国 ● 農林水産大臣賞 會田　　三郎（山形市） ● 学校奨励賞 山形市立南小学校 ● 優秀賞 鈴木　智佳（山形市）	全　国 ● 内閣総理大臣賞 栗野　梨恵（山形市） ● 学校奨励賞 山形市立第九中学校 ● 優秀賞 會田　次郎（山形市）

第44回

「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクール審査経過の概要

■応募数

作文：392点
図画：970点
合計 1,362点

区分	1部	2部	3部	計
作文部門	122点	147点	123点	392点
図画部門	531点	400点	39点	970点

■審査

(1) 県予選審査期日

作文部門 令和元年10月15日(火)
図画部門 令和元年10月24日(木)

(2) 全国コンクール審査期日

作文部門 令和元年11月19日(火)
図画部門 令和元年11月20日(水)

(3) 県コンクール審査期日

作文部門 令和2年1月14日(火)
図画部門 令和2年1月9日(木)

■審査委員

【県コンクール】

作文部門(5名)

審査委員長 佐藤 昌彦 (山形市立金井小学校 校長)
齊藤 厚志 (天童市立第二中学校 教頭)
佐藤 弘美 (山形市立第八中学校 教諭)
井上麻美子 (山形大学附属小学校 教諭)
高橋 夏奈 (南陽市立中川小学校 教諭)

図画部門(3名)

審査委員長 横山 和弘 (寒河江市立高松小学校 校長)
矢萩 和幸 (東根市立第二中学校 教頭)
佐竹真理子 (山形市立明治小学校 教諭)

■審査結果

(1) 県コンクール

- ・山形県知事賞 作文部門3名／図画部門3名
- ・山形県農業協同組合中央会会長賞 作文部門3名／図画部門3名
- ・優秀賞 作文部門15名／図画部門15名
- ・学校奨励賞 作文部門2校／図画部門2校

(2) 全国コンクール (県内入賞者(校)数)

- ・文部科学大臣賞 作文部門1名
- ・農林水産大臣賞 作文部門1名
- ・優秀賞 作文部門1名
- ・学校奨励賞 作文部門2校

■表彰式

期日：令和2年2月9日(日)
会場：山形市「山形国際ホテル」

年度	部門	1部	2部	3部	合計
14 (第27回)	作文 図画	91 688	98 417	132 23	321 1,128
15 (第28回)	作文 図画	87 771	82 589	189 30	358 1,390
16 (第29回)	作文 図画	50 449	157 468	129 29	336 946
17 (第30回)	作文 図画	67 523	87 496	156 37	310 1,056
18 (第31回)	作文 図画	33 429	217 499	227 29	477 957
19 (第32回)	作文 図画	44 488	117 418	225 27	386 933
20 (第33回)	作文 図画	58 550	84 412	231 27	373 989
21 (第34回)	作文 図画	77 521	95 376	235 26	407 923
22 (第35回)	作文 図画	68 531	151 308	196 67	415 906
23 (第36回)	作文 図画	56 531	66 290	266 32	388 853
24 (第37回)	作文 図画	51 424	61 309	211 36	323 769
25 (第38回)	作文 図画	56 450	83 372	150 19	289 841
26 (第39回)	作文 図画	95 353	134 382	150 19	379 754
27 (第40回)	作文 図画	122 353	167 370	178 45	467 768
28 (第41回)	作文 図画	124 464	165 361	121 64	410 889
29 (第42回)	作文 図画	133 500	161 344	86 48	380 892
30 (第43回)	作文 図画	86 462	136 349	94 48	316 859
31 (第44回)	作文 図画	122 531	147 400	123 39	392 970

第44回	第43回	第42回	第41回	第40回	第39回
山形県 ●県知事賞 相田 瑛舞(南陽市) 安部くるみ(米沢市) 丸谷 真嬉(鶴岡市) ●県中央会会長賞 田村 理音(米沢市) 宗形 柚希(山形市) 小林 柊也(川西町) ●優秀賞 横山 莉子(山辺町) 菅原 菜央(東根市) 矢口 美颯(最上町) 北澤 優志(米沢市) 森谷 茉南(鶴岡市) 後藤 怜皇(最上町) 安食 日涼(戸沢村) 我妻 尚哉(高畠町) 伊藤 清子(米沢市) 佐藤 舜太(米沢市) 早坂 菜摘(米沢市) 戸田 和幸(米沢市) 山崎 遙斗(米沢市) 保科 紅葉(川西市) 中目 量太(鶴岡市) ●学校奨励賞 米沢市立北部小学校 鶴岡市立鶴岡第三中学校	山形県 ●県知事賞 柴田 皇(山形市) 佐藤 椰(庄内町) 手塚 大地(米沢市) ●県中央会会長賞 杉浦 凜(米沢市) 原田 昊土(鶴岡市) 丸谷 亮太(鶴岡市) ●優秀賞 峯田 孝誠(米沢市) 齋藤 夢佳(村山市) 土田 霸瑠(村山市) 天野 悠都(村山市) 青木 舞桂(米沢市) 安部くるみ(米沢市) 加藤 花音(高畠町) 本間 智妃(三川町) 高橋龍之介(南陽市) 樋口 佳汰(白鷹町) 伊藤 葵(川西町) 齋藤由希哉(高畠町) 佐藤 弥桜(鶴岡市) 梅本 京香(鶴岡市) 正田 夏海(鶴岡市) ●学校奨励賞 村山市立楯岡小学校 川西町立川西中学校	山形県 ●県知事賞 安部くるみ(米沢市) 佐藤 舜太(米沢市) 鈴木 雄貴(米沢市) ●県中央会会長賞 佐藤 花音(三川町) 千田 悠悟(南陽市) 伊藤 芽琉(山形市) ●優秀賞 鈴木 萌音(山形市) 佐藤 純真(高畠町) 齊藤 逞真(最上町) 阿部 璃空(新庄市) 手塚 遙斗(高畠町) 手塚 大地(米沢市) 加藤 響(高畠町) 井上 櫻子(高畠町) 星 七菜子(新庄市) 阿部 真宙(最上町) 平清水なおり(山形市) 高橋 陸斗(山形市) 大橋 彩未(米沢市) 佐藤慶太郎(川西市) 鈴木 広美(米沢市) ●学校奨励賞 米沢市立塩井小学校 米沢市立第二中学校	山形県 ●県知事賞 野川 裕太(米沢市) 高橋 悠太(天童市) 佐藤 百華(米沢市) ●県中央会会長賞 木内 春陽(東根市) 伊藤 柚葵(天童市) 松本 季子(米沢市) ●優秀賞 鈴木 あこ(庄内町) 安部くるみ(米沢市) 加藤 翼沙(高畠町) 柴崎 皓大(最上町) 堀川 遙(天童市) 大場新之助(最上町) 伊藤 楓華(天童市) 大類 渚(天童市) 佐藤 里菜(米沢市) 小野 海咲(最上町) 高橋 夢月(米沢市) 山本 穂(米沢市) 竹田 勇貴(米沢市) 鈴木 里桜(米沢市) 舟山 楓夏(山形市) ●学校奨励賞 天童市立津山小学校 米沢市立第二中学校	山形県 ●県知事賞 鈴木 佑佳(山形市) 佐藤虎太郎(真室川町) 吉田 ゆい(米沢市) ●県中央会会長賞 晶腹 里玖(新庄市) 伊藤 晴夏(三川町) 山口 雅乃(鶴岡市) ●優秀賞 安部くるみ(米沢市) 早坂 颯(東根市) 木内 春陽(東根市) 早坂 涼太(東根市) 川田 健太(新庄市) 笠原 莉玖(新庄市) 小下 健太(高畠町) 田中 空来(寒河江市) 佐藤 弥桜(鶴岡市) 庄司潤一郎(真室川町) 加藤 朱音(米沢市) 新野 涼香(川西市) 橋本 未旬(米沢市) 高野穂乃花(山形市) 伊藤 寧音(高畠町) ●学校奨励賞 新庄市立萩野小学校 米沢市立第二中学校	山形県 ●県知事賞 門脇 陽希(大蔵村) 後藤 芽衣(河北町) 森村 春輝(山形市) ●県中央会会長賞 軽部 翔真(寒河江市) 青木 実央(新庄市) 留守めぐみ(米沢市) ●優秀賞 後藤 天星(最上町) 早坂 颯真(東根市) 加藤 響(大蔵村) 後藤 有瑠(高畠町) 伊藤准輝亜(高畠町) 小澤 爽太(白鷹町) 五十嵐広大(鶴岡市) 丸山 美優(鶴岡市) 打田ゆらら(白鷹町) 荒木 怜(最上町) 八巻 怜花(米沢市) 山口 雅乃(鶴岡市) 今野 佑香(米沢市) 渋江 初菜(山形市) 井上 砂城(鶴岡市) ●学校奨励賞 大蔵村立大蔵小学校 山形市立第三中学校
全 国 ●文部科学大臣賞 青木 舞桂(米沢市) ●農林水産大臣賞 園部 杏莉(庄内町) ●優秀賞 丸谷 真嬉(鶴岡市)	全 国 ●優秀賞 佐藤 椰(庄内町)	全 国 ●全国農業協同組合中央会会長賞 早坂 佑羽(大蔵村) ●優秀賞 佐藤 舜太(米沢市)	全 国 ●優秀賞 野川 裕太(米沢市) 高橋 悠太(天童市) 佐藤 百華(米沢市)	全 国 ●全国農業協同組合中央会会長賞 後藤 天羽(最上町) ●優秀賞 吉田 ゆい(米沢市)	全 国 ●農林水産大臣賞 松浦蒼一郎(庄内町) ●優秀賞 門脇 陽希(大蔵村) 後藤 芽衣(河北町) 森村 春輝(山形市) ●学校奨励賞 庄内町立余目第一小学校
山形県 ●県知事賞 秋保 一路(尾花沢市) 木村 佳恵(山形市) 古内 慧土(山辺町) ●県中央会会長賞 工藤 壮真(新庄市) 星川 煌(尾花沢市) 朝倉 春花(山形市) ●優秀賞 関 心和(白鷹町) 大場 雄翔(最上町) 石山 蒼(最上町) 鈴木 瑠桜(米沢市) 佐藤 花音(三川町) 西尾アシュリン(尾花沢市) 尾崎ありさ(尾花沢市) 尾崎 翠玖(尾花沢市) 狩野 祐輔(高畠町) 岩浪 廉(鶴岡市) 原田 陽菜(山形市) 鈴木妃依里(山形市) 川口 憧(山辺町) 宗田 萌(山辺町) 齋藤 美維(鶴岡市) ●学校奨励賞 尾花沢市立尾花沢小学校 山辺町立山辺中学校	山形県 ●県知事賞 遠藤 嘉乃(尾花沢市) 遠藤 真心(尾花沢市) 富樫 優有(山形市) ●県中央会会長賞 佐藤 瑛太(尾花沢市) 石山 万莉(尾花沢市) 加藤百合亜(新庄市) ●優秀賞 安彦咲汰朗(南陽市) 二戸 心菜(最上町) 後藤 莉渚(尾花沢市) 西塚 悠生(尾花沢市) 原田 僚(尾花沢市) 永沢 真彩(尾花沢市) 齋藤 真輝(鶴岡市) 村上 菜生(三川町) 佐藤 結望(三川町) 高橋 伊吹(尾花沢市) 原田 陽菜(山形市) 木元素玖凜(鶴岡市) 薬科ひなた(米沢市) 松田 桃香(鶴岡市) 箱山 妃南(新庄市) ●学校奨励賞 尾花沢市立玉野小学校 山形市立金井中学校	山形県 ●県知事賞 和田 紗采(山形市) 秋保 大地(尾花沢市) 富樫 優有(山形市) ●県中央会会長賞 加藤 朱葵(南陽市) 元木 煌瑛(東根市) 石倉 妃華(山辺町) ●優秀賞 小野健太郎(山形市) 佐藤この実(鶴岡市) 佐藤 明咲(最上町) 手塚 遙斗(高畠町) 浦山 結羽(米沢市) 富樫 太一(尾花沢市) 二瓶 排太(山形市) 三坂 琉音(尾花沢市) 志村直太郎(尾花沢市) 澤 悦菜(高畠町) 渡邊 和哉(山形市) 齋藤 桃々(山形市) 松田 桃香(鶴岡市) 鈴木 里桜(米沢市) 箱山 妃南(新庄市) ●学校奨励賞 山形大学附属小学校 山形市立金井中学校	山形県 ●県知事賞 鈴木 大智(高畠町) 後藤 早希(東根市) 佐藤 龍心(鶴岡市) ●県中央会会長賞 安野 世那(尾花沢市) 渡部 蓮(鶴岡市) 村山 亜弥(山辺町) ●優秀賞 加賀山 蒼(鶴岡市) 三坂明日樂(尾花沢市) 山川 大翔(山形市) 石山 裕土(尾花沢市) 伊藤 愛陽(尾花沢市) 高橋 悠太(天童市) 菅野 柚杏(尾花沢市) 齋藤 美維(鶴岡市) 齋藤 陽菜(尾花沢市) 佐藤 樹杏(鶴岡市) 阿部 心暖(河北町) 齋藤 香奈(山形市) 齋藤 遥奈(山形市) 石川 妃咲(山形市) ●学校奨励賞 尾花沢市立尾花沢小学校 山形市立金井中学校	山形県 ●県知事賞 熊谷飛悠吾(尾花沢市) 伊藤 拓磨(尾花沢市) 鎌田 龍也(山辺町) ●県中央会会長賞 金内 大和(鶴岡市) 伊藤 未希(尾花沢市) 工藤 千慧(山形市) ●優秀賞 石山 竜成(最上町) 松田 紗和(鶴岡市) 高橋 晴(最上町) 星 七菜子(新庄市) 笠原 未羽(最上町) 柴崎 大和(尾花沢市) 菅野 柚杏(尾花沢市) 原田 麗(尾花沢市) 大江 誓羅(尾花沢市) 稲村 大和(大蔵村) 田中 未咲(山形市) 石澤 元乾(山辺町) 田辺 理紗(飯豊町) 中島 彩(山形市) 佐藤 龍心(鶴岡市) ●学校奨励賞 尾花沢市立鶴子小学校 山形市立金井中学校	山形県 ●県知事賞 三船 優(尾花沢市) 佐藤ひより(山形市) ●県中央会会長賞 鈴木 佑奈(大石田町) 遠藤 陸冬(尾花沢市) ●優秀賞 星川 葵(尾花沢市) 原田 結奈(尾花沢市) 星川 椿(尾花沢市) 矢作 結母(尾花沢市) 富樫 智花(山形市) 小野 慈和(尾花沢市) 今野 泰成(尾花沢市) 五十嵐雄汰(鶴岡市) 佐藤 夏都(鶴岡市) 菅藤 心菜(尾花沢市)
全 国	全 国 ●優秀賞 遠藤 嘉乃(尾花沢市) 遠藤 真心(尾花沢市)	全 国 ●文部科学大臣賞 井上 花帆(尾花沢市) ●優秀賞 富樫 優有(山形市) ●学校奨励賞 尾花沢市立尾花沢小学校	全 国 ●優秀賞 鈴木 大智(高畠町)	全 国	全 国

第44回「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクール募集要領

1. 趣 旨

本コンクールは、JAグループがすすめる「みんなのよい食プロジェクト」の一環として、これからの食・農・地域を担う次世代の子どもたちに、お米・ごはん食、稲作など、日本の食卓と国土を豊かに作りあげてきた水田農業全般についての学びを深めてもらうとともに、子どもたちの優れた作品を顕彰することを通じて、お米・ごはん食・日本食の重要性を広く周知することを目的として実施する。

2. 課 題 （作文・図画両部門共通）

毎日のごはんでおいしかったことや家族とのコミュニケーション、お米・ごはん食に関しての思い出や考えたことなどを素直な気持ちで自由に表現して下さい。

3. 応募資格

小学校および中学校に在籍する児童・生徒。
特別支援学校の小学部、中学部。

4. 応募規格 （枚数・大きさ）

【作文部門】

- 部 小学校 1 年生～ 3 年生（400 字詰め原稿用紙 2 枚以内、またはマス目の大きい原稿用紙で 800 字以内）
 - 部 小学校 4 年生～ 6 年生（400 字詰め原稿用紙 3 枚以内）
 - 部 中学校 1 年生～ 3 年生（400 字詰め原稿用紙 4 枚以内）
- ⑥ 作文用紙 1 枚目の 1 行目に作品の題名、2 行目に学校名、学年、氏名、3 行目から本文を書き出してください（学校名、学年、氏名が 3 行になる場合は 4 行目から本文を書き出す）。
- ⑦ 本人による直筆を原則とし、パソコンなどにより作成した原稿は応募不可とします。ただし、視覚・手に障害のある児童・生徒については、その旨を特記事項として応募票の欄外に記述した場合のみ、パソコンなどで作成した原稿の応募を認めます。

【図画部門】

- 部 小学校 1 年生～ 3 年生
 - 部 小学校 4 年生～ 6 年生
 - 部 中学校 1 年生～ 3 年生
- B3 判、もしくは四つ切りの市販画用紙を使用。画材はとくに制限しません。

5. 応募規則

- 課題にそった作品を対象とします。
- 応募は本人の未発表でオリジナルの作品に限ります。また、他のコンテストに応募していない作品に限ります。他人の写真や作品を模写・模倣したものは応募できません。著作権、商標権、肖像権など、他者の権利を侵害する作品は応募できません。
- ひとりで 1 部門に 2 点以上の応募はできません。2 点以上応募の場合は、**2 点とも審査対象外となる場合があります。**
- 図画作品でスローガンや文字を入れたポスター的なものや台紙に貼ったものは応募できません。
- 学校で応募の際は、別添の推薦名簿（作文部門 7 ページ、図画部門 8 ページ）を切り取りもしくはコピーしたうえで記入し、必ず添付してください。**コピーする場合は、必ず A 4 サイズでコピーしてください。**
- 作品には、1 点ごとに次の事項を記入した応募票（6 ページ）をつけてください。つける位置は最後のページの裏面、図画は裏面中央とします。①作品の題名②氏名・性別③学校名・学年・組④学校の所在地（郵便番号・電話番号）⑤本人の住所（郵便番号・電話番号）⑥JA（農業協同組合）名
- 全国コンクールの大臣賞および全国農業協同組合中央会会長賞受賞作品ならびに山形県コンクールの山形県知事賞および山形県農業協同組合中央会会長賞受賞作品は、「協同の杜」JA研修所に 1 年展示後、令和 3 年 2 月上旬に返却予定です。なお、作品の著作権は全国農業協同組合中央会および山形県農業協同組合中央会に帰属します。
- 作品を応募することによって、応募作品をJAグループの広報活動および諸事業活動のために利用することに予め承諾したものとします。その際、作文の部分的な抜き出しや、図画のサイズの変更・トリミングなど一部改変させていただく場合があります。印刷等の都合上、実際の作品と色が多少異なる場合がございます。
- 記入いただいた個人情報、入賞通知・発表や表彰式などのほか、県名、学校名、学年、氏名等の一部情報についてはプレスリリース等のメディアへの発表、本会の広報媒体（入賞作品集やホームページ等）への露出や作品展示などの広報活動および諸事業活動で公表・使用することがあります。上記および、法令等により開示を求められた場合を除き、承諾なくコンクール関係者以外の第三者に個人情報を提供することはありません。
- 作品を応募することによって、上記の個人情報の使用に承諾したものとします。
- 入賞通知後でも、当該入賞作品がすでに発表済みやオリジナルでない作品と判明した場合、応募規則への違反や、虚偽の報告が判明した場合は受賞を取り消します。

6. 締切日

令和元年 9 月 30 日（月） ※必着

7. 全国段階との関連

- 県段階で予選審査を行い、各部門各部門ごとに点数を全国コンクールに推薦します。
- 全国コンクール入賞作品以外（優秀賞除く）の作品を対象に、山形県コンクール審査を行い、県段階の入賞作品を決定します。

8. 審査員

【全国コンクール】

◎審査委員長
中村 靖彦 氏（東京農業大学客員教授）
◎作文部門
設楽 敬一 氏（（公社）全国学校図書館協議会理事長）
竹村 和子 氏（（公社）全国学校図書館協議会常務理事・事務局長）
堀米 薫 氏（児童文学作家、（一社）日本児童文芸家協会理事）
真鍋 和子 氏（（一社）日本児童文学者協会監事、児童文学作家）
◎図画部門
岡村 泰成 氏（美術家集団「Moss Spirits」代表、日本美術家連盟会員）
小柳津須看枝 氏（日本美術家連盟会員）
中馬 誠二 氏（季風会同人、渋谷区文化芸術振興協議会委員）
西巻 茅子 氏（絵本作家）

【山形県コンクール】

県教育庁および小・中学校教員（作文部門 5 名、図画部門 3 名）

9. 審査基準

別添審査基準（作文部門 4 ページ、図画部門 5 ページ）による。

10. 賞

【全国コンクール】

- | | |
|--------------------|---|
| (1) 内閣総理大臣賞 | 作文・図画部門各 1 名——計 2 名
賞状と副賞（記念盾及びお米券、記念品） |
| (2) 文部科学大臣賞 | 各部門各部門ごとに 1 名——計 6 名
賞状と副賞（お米券及び記念品） |
| (3) 農林水産大臣賞 | 各部門各部門ごとに 1 名——計 6 名
賞状と副賞（お米券及び記念品） |
| (4) 全国農業協同組合中央会会長賞 | 各部門各部門ごとに 1 名——計 6 名
賞状と副賞（お米券及び記念品） |
| (5) 優秀賞 | 各部門各部門ごとに 15 名——計 90 名
賞状と副賞（記念品） |
| (6) 学校奨励賞 | 内閣総理大臣・文部科学大臣・農林水産大臣
各賞受賞者所属校——計 14 校 賞状 |

【山形県コンクール】

- | | | |
|---------------------|-----------------------|-------|
| (1) 山形県知事賞 | 各部門各部門ごとに 1 名——計 6 名 | 賞状と副賞 |
| (2) 山形県農業協同組合中央会会長賞 | 各部門各部門ごとに 1 名——計 6 名 | 賞状と副賞 |
| (3) 優秀賞 | 各部門各部門ごとに 5 名——計 30 名 | 賞状と副賞 |
| (4) 学校奨励賞 | 各部門各部門ごとに 1 校——計 4 校 | 賞状と副賞 |

11. 入賞発表・表彰式（作文・図画部門共通）

【全国コンクール】

- 入賞発表 令和元年 12 月上旬
- 表彰式 令和 2 年 1 月 11 日（土）（入賞校、入賞者宛通知します。）

【山形県コンクール】

- 入賞発表 令和 2 年 1 月下旬（予定）
- 表彰式 令和 2 年 2 月中旬（予定）（入賞校、入賞者宛通知します。）

12. 主催

農業協同組合 / 都道府県農業協同組合中央会 / 全国農業協同組合中央会

12. 受付窓口および問合せ先

- 県内の各 JA を受付窓口とします。
- 県段階は次にお問い合わせください。

〒990-0042 山形市七日町三丁目 1 番 16 号
山形県農業協同組合中央会（JA 山形中央会）
総務農政部「作文・図画コンクール」係（担当：青柳）
TEL：023-634-8111 FAX：023-633-1754